

第1回調達WGにおける今後の課題に関する委員の意見

参考資料3-4

- ・大阪・関西万博は半年したら全て壊してしまう。SDGsの観点からそれでいいのかと。議論して行ってほしい。
- ・後利用をどうするかが非常に大切で、後利用を考えた調達をしてほしい。
- ・担保方法としてチェックリストなどを使うと思うが、マイナス面の配慮だけでなく、プラス面を促進する条項もあるので、むしろグッドプラクティスをショーケースすることも考えていくと有益な情報も集まるので検討してほしい。
- ・パビリオン運営主体など適用範囲を広く取るのは評価すべき。実効性をどう担保するか。性善説で自己申告を信じるというのでは必ず不適合が出ると言っていい。どれぐらいプロアクティブに行動していくかが大事。
- ・一過性のイベントであることに難しさがある。プロアクティブなアプローチができるか。特に建設は、パビリオンが壊されることを前提にしているのはサステナビリティに反している。先回りした考え方や方針を決めてほしい。
- ・東京2020では調達コードが東京都の調達基準になることを願ったがそうはなっていない。可能であれば、今回の調達基準はホストシティでの調達基準となしてほしい。
- ・東京2020は当時やれることはやったが、企業に求められる水準も一段と高くなっている。状況は変わっており、それと同じというだけでは安心材料になっていない。
- ・ナッジなどを使って万博に参加することでポジティブに参加者の行動変容につなげるべきである。
- ・調達コードを守っている企業をどう評価するか、それらを発信することも重要。
- ・認証制度に基づかないものは個別にやるということだが、万博には中小企業振興の側面もあり、中小企業が参入できるのか。諦めるのはよくないし、甘くなるのもよくない。

第1回調達WGにおける今後の課題に関する委員の意見

- 木材と紙の中でリスクの高さに注目すると、東京2020では熱帯雨林からの調達で一番は型枠が問題だった。リスクの高い部分をしっかりモニタリングすることを明確にしてはどうか。
- 木材のバイオマス利用については慎重であるべき。
- 「食材の調達と食品ロス削減」は重要テーマ。食品ロス削減はSDGs目標でも明記され世界的にも注目度が高く、東京2020大会の食品ロス問題は大きな関心呼んだ。政府の「食品ロス削減推進会議」では、2025年大阪・関西万博での食品ロス削減に関しても、今後議論する予定とのこと。早い段階からぜひ連携し、2025年に活かしてほしい。
- 東京オリンピックでは会場におけるスタッフ用弁当の大量廃棄など、食品ロス問題が報道されたため、万博では食品ロス削減について記載が必要ではないか。有識者委員会での食に関するご意見や、東京オリンピックの持続可能性大会後報告書等でも今後のイベントにおける食品ロス削減について言及されている。
- 「環境物品等の調達の推進に関する基本方針」にプラスチック素材の配合基準が示されているとともに、レジ袋有料化の対象外となるプラスチック製買物袋の基準も規定されている。また、プラスチック資源循環促進法において、使い捨てプラスチック製品の使用の合理化が進められることも踏まえ、「使い捨てのプラスチック製品」の個別基準を設けるべき。
- 「大阪ブルー・オーシャン・ビジョン」の尊重を掲げるのであれば、バイオプラスチックについては、カーボンニュートラルの観点からのバイオマスプラスチックへの代替だけでなく、生分解性にも着目した調達コードにするべきであり、それを明確にするためにも、木材や紙と同様に個別基準を示すべき。